



連載
講座

発達障害①



発達障害って？

ここ数年、テレビやドラマ、さまざまなメディアで取り上げられ、周知されるようになってきた発達障害。一体どのようなものなのでしょうか。どのように支援していけばよいのでしょうか。

発達障害は、生まれつき脳の発達が通常と少しだけ違っているために、小さなうちから症状が現れます。成長するにつれ、苦手な部分に気づき、生きにくさを感じることもあるかもしれません。

あるいは、本人にはまだ自覚がなくても、家族や周囲の人たちが困っているケースもあるようです。

たとえば・・・

学力がつかない

人間関係・集団生活が
うまくいかない

生活面・行動面で
ミスやトラブルが多い

…などで、困っている人・悩んでいる人がいるかもしれません。

発達障害のある子が中学・高校で直面する問題（学力不足、人間関係のつまずき、生活面のトラブル）は、将来につながりうる課題でもあります。自分自身の良いところ、得意なことなどをきちんと分かって受け止め、自己肯定感を高めながら、課題に向き合っていくことが重要です。そして、困り感や苦手な部分に対して支援の必要性を理解し、困ったときに、支援を求めることができることが必要です。

問題をとくカギは？

環境

家庭、学校、
地域、社会の
理解・対応

LD（学習障害）

読む、書く、計算するなど
特定の事柄を苦手とする

本人の気持ち

自己理解
意欲

自閉症スペクトラム障害

コミュニケーション能力、社会
性、想像力に未熟さが見られる

ADHD（注意欠陥多動性障害）

多動性、衝動性、不注意
の行動特性が見られる

対応策

教育面 ・ 医療面 ・ 生活面 での支援

< 社会 >

教育、福祉、医療、労働
などによる支援

+

< 個人 >

個人の取り組み
家庭の協力

発達障害には、大きく分けて3つのタイプがあります。人によってはいくつかのタイプを併せもっている場合があります。また、症状が目立ってしまうこともあれば、うまく適応して生活できることもあります。その背景には、様々な環境要因や本人の気持ちがあるからです。

一人一人の様子や思いにあった、教育面・医療面・生活面における支援や取り組みが必要です。もちろん、本人の工夫や努力、家庭での取り組みも大切です。

本人がどんな困り感をもっているのか、どんなふうになりたいのか、そのためにはどんな手だてがあるのか…一人で悩まず、特別支援学校などに相談してみてください。